



公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織
 佐賀県ユニセフ協会通信 (No. 115) uniwish43号
 佐賀県佐賀市水ヶ江四丁目2番2号 (2023年11月)
 (電話・FAX) 0952-28-2077
 (業務時間) 月・火・木・金 10:00~15:00
 E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp
 ホームページ <http://www.saga-unicef.jp/>
 Facebook <http://www.facebook.com/unicef.saga>



2023年 子ども達を苦しめる戦争・紛争の悲劇

◆10月7日以降 ガザは子どもにとって世界で最も危険な場所。

地球上で最も人口密度の高い場所のひとつであるガザ地区では、170万人を超える人々が避難生活を送っており、その半数が子どもたちです。

10月7日の武力攻撃の激化の始まり以来46日間で、**子ども5,300人以上が殺害されたほか、今も1,200人以上の子どもの行方がわからなくなっており**、爆撃で倒壊した建物や家屋のがれきの下に埋まった状態である可能性があると考えられています。これは、人口密集地での爆発性兵器の使用が招いた悲劇です。

砲弾や銃撃に加え、壊滅的な生活環境と食糧不足によって、子どもたちは極度の命の危険にさらされています。ガザでは、今後数カ月以内に、消耗症に陥る子どもが30%近く増加する可能性があると考えられています。



命の危機にさらされるガザの子どもたち

ガザ人道危機 緊急募金

© UNICEF/UNI448902/Ajjour



© UNICEF/UNI472271/Zaqout
 南部のハンユニスにある病院で、家族を亡くし涙を流す男の子
 (ガザ地区、2023年11月16日撮影)



© UNICEF/UNI472239/Zaqout
 足を負傷し、治療のためにエジプトへ向けて搬送される12歳のアフマドさん。(ガザ地区、2023年11月1日撮影)



© UNICEF/UNI456095/Khaled
 ラファ検問所を通過する列に並び、ユニセフの命を守る支援物資を積んだトラック。(エジプト、2023年10月20日撮影)



© UNICEF/UNI457931/El Baba
 緊急避難所となっている学校で生活している家族。(ガザ地区、2023年10月16日撮影)

◆ウクライナ 子どもの学習喪失、広範囲に教育中断4年目に突入。

【2023年8月29日キーウ/ジュネーブ発】

ウクライナ国内での教育に対する継続的な攻撃と、難民受け入れ国における低い就学率により、ウクライナの670万人の3~18歳の子どもが多くが学ぶことに苦労していると、ユニセフ(国連児童基金)の欧州中央アジア地域事務所代表のレジーナ・デ・ドニーチスは警鐘を鳴らしています。

ウクライナ全土において、戦争以前から発生していた新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより4年目の教育中断に直面する中、子どもたちは、ウクライナ語、読解、数学における学習成果の低下を含め、広範囲にわたる学習喪失の兆候を示しています。



© UNICEF/UNI429346/Filippov
 新学期が始まる中、ユニセフから受け取ったパソコンで、もう1年オンライン学習を受ける準備をする12歳のビクトリアさん。「戦争が始まってから1年半、同級生に会っていないです」と話す。(ウクライナ、2023年8月6日撮影)

【ユニセフ地雷教育用教材等提供】

© UNICEF/UNI429298/Filippov
 ヘルソン州のスピルノ・チャイルド・スポットで、地雷についての授業を受ける子どもたち。(ウクライナ、2023年7月21日撮影)



「世界子供白書2023」は、「すべての子どもに 予防接種を」がテーマです。

世界子供白書2023

すべての子どもに
予防接種を



天然痘ワクチンが開発されて以来、2世紀以上にわたって、さまざまなワクチンが人々の健康を支えてきました。ポリオ、はしか、肺炎、エボラ出血熱など、現在20以上の病気に対して、ワクチンは感染や重症化を防ぐことに役立っています。予防接種はユニセフの活動の中で、最も成果をあげてきた取り組みの一つです。

1990年には年間1,250万人だった世界の5歳未満児の死亡数は、2021年には500万人まで減少しました。その前進には、ジフテリア、破傷風、ポリオ、はしかなどのワクチンの普及が大きく貢献しています。

ところが、新型コロナウイルス感染症の世界的流行の影響などにより、子どもに対する予防接種率は過去30年で初めて大きな後退を見せました。紛争や避難民の増加、またワクチンに関する不正確な情報が人々に予防接種を躊躇させていることも、その要因の一つです。

予防接種がもたらすもの



予防接種を受けることで、子どもたちは病気から守られる。その結果、学校を休まずに済み、学習成果を向上させることができる。



子どもたちが病気から守られれば、両親や養育者（多くの場合、母親）が、病気の子どものお世話をするために仕事を休む必要がなくなる。



家族が、病気の子どもの世話に関して思い悩んだり、時には非常に高額な医療費に直面する可能性も低くなる。



子どもたちへの予防接種は、集団免疫を促進し、薬剤耐性の広まりを抑制することから、コミュニティ全体の健康をサポートする。



Hand in Hand

2023年ハンド・イン・ハンド募金活動で取り組み！

テーマ：すべての子どもに予防接種を
～今、子どもたちの命を守る行動を！～



UNICEF/UN0517738/Poveda はしかの予防接種を受ける6歳の女の子。(ベネズエラ)



★ 日本のSDGs達成状況（2023報告）

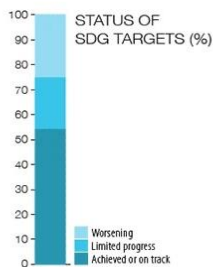
JAPAN

OECD Countries

OVERALL PERFORMANCE

COUNTRY RANKING **21** /166

COUNTRY SCORE **79.4**
REGIONAL AVERAGE: 77.8



AVERAGE PERFORMANCE BY SDG



※SDGsの推進を行うSDSN

(Sustainable Development Solutions Network) と独ベルテルスマン財団は、2023年の世界の国々のSDGs達成度ランキングを公表、日本は前年の19位から2位下落し21位となりました。

SDG DASHBOARDS AND TRENDS



・日本の達成状況。アイコンの背景色は、緑が「達成済み」、黄色が「課題が残る」、オレンジが「重要な課題がある」、赤が「深刻な課題がある」（出典：「Sustainable Development Report 2023」）

日本のSDGs達成状況において
深刻な課題がある目標は5つ

・目標5

「ジェンダー平等を実現しよう」

*女性議員の比率や、男女の賃金格差が諸外国と比較して劣後している。

・目標12

「つくる責任つかう責任」

・目標13

「気候変動に具体的な対策を」

*日本は輸入を通じた二酸化炭素や窒素などの排出、輸入を通じた生態系への脅威など輸入を通じた環境などへの負荷が多く指摘されている。

・目標14

「海の豊かさを守ろう」

・目標15

「陸の豊かさを守ろう」



第7回 SDGs 絵でつたえよう！『わたしたちの地球』を守る絵画展に 作品応募が、477点ありました

◆佐賀県ユニセフ協会では、SDGs「絵で伝えよう！『私たちの地球』を守る」絵画展に取り組み、今年で7年目となります。

夏季休業中の作品制作として絵画募集を行いましたところ、各学校から477点もの作品の応募がありました。絵画展を主催しました当協会でも、SDGsについて、皆様が強い関心を持たれていることや取り組みの必要性を強く感じていただいていることに、大きな喜びを感じ感謝をしているところです。

◆会場には期間中、山口祥義知事を初め、入賞者のご家族様や学校関係者の皆様、来庁者の方々、社会見学に来られた小・中学生など、多くの皆様が熱心に作品を見ていただきました。作品をご覧いただいた方々は「未来を担う子どもたちの新鮮な感性とメッセージ性の高さに感心しました。」など、異口同音に仰っていました。記念撮影もたくさんしていただきました。

校種	応募数
小学校	400点
中学校	77点
合計	477点



【山口祥義佐賀県知事も来場】

《絵の展示》 佐賀県庁県民ホール



【絵画展の様子】



《表彰式》 佐賀庁 県民ホール



【特別賞受賞者及び主催者との集合写真 2023. 10. 15】

《審査会 9/26》

← 【森先生、井上先生による審査の様子】

1. 日本ユニセフ協会会長賞

【東与賀小6年 塚原葉音さん】



大地とつながる海もいつまでも
きれいであり続けてほしいと思
ひがきました。

2. 佐賀県ユニセフ協会会長賞

【佐大附属小4年 吉原美和さん】



世界には安全な水を使えない人が20
億人もいます。みんなが安心しての
める水を手に入れられたらいいな。

3. 佐賀県ユニセフ協会会長賞

【江北小6年 瀬上莉弓さん】



きれいな海を人間の手、自然の手
でぬりかえていこう。魚に一びき一
びき命があるということ。

4. 佐賀新聞社賞

【赤松小2年 富崎美怜さん】



干がたには生き物がたくさんいます。
生きもののいのちをまもるために干
がたをきれいにしましょう。

5. 佐賀新聞社賞

【三田川中1年 森琴葉さん】



便利なものを追求し続けた結果、私たちは深刻な
海洋汚染を引き起こしました。人間の手ですべての
生き物が住み続けられる地球を取り戻したいです。

6. 佐賀新聞社賞

【久保泉小4年 大坪志織さん】



海の豊かさを守ろう。



○ 5月3日(水) 有田陶器市 募金活動 10:00~15:00
 今右衛門窯店舗前
 テーマ:ウクライナ、トルコ・シリアの
 子どもたちを助けたい
 ボランティア協力者:清和高校生3人
 佐賀大学生4人、西九州大学生3人



○ 5月15日(水) 久留米ユニセフ協会 訪問 <久留米商工ビル>
 13:30~15:00

*佐賀県ユニセフ協会のスタッフ研修10名参加
 *「子どもサミット」in 久留米



○ 5月22日(月) 田口電機工業 会社訪問
 *佐賀県ユニセフ協会のスタッフ研修10名参加
 *「子どもサミット」in 久留米

○ 6月4日(日) 第39回鹿島ガタリンピック 募金活動 10:00~15:00
 テーマ:ウクライナ、トルコ・シリアの子どもたちを助けたい
 ボランティア協力者:鹿島東部中学生 <鹿島七浦海浜公園>



○ 6月5日(月) 長崎市立小ヶ倉中学校 出前授業 10:40~11:40
 *「平和学習」
 *内容:「世界の子どもたちとユニセフ」
 ~世界の子ども達のことを知り、
 平和や自分にできることを考えよう~



○ 6月22日(木) 武雄市立武雄北中学校「ユニセフ教室」13:40~15:00
 *テーマ:「国際理解」
 ~持続可能な世界をつくるために~
 *対象:1・2・3年生 90人 <体育館>



○ 7月4日(火) 佐賀市立嘉瀬小学校「平和集会」出前授業
 8:25~9:15 <体育館>
 *テーマ:平和について「世界の子ども達について知ろう」
 *1年生~6年生 273人

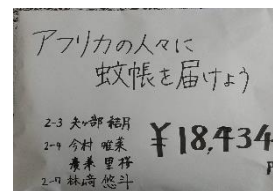


○ 7月7日(金) 鹿島市立浜小学校「平和集会」出前授業 8:40~9:10
 *テーマ:平和集会「世界の子ども達について知ろう」
 *1年生~6年生 125人



○ 7月20日(木) 佐賀市立鍋島小学校 9:30
 *ハートフル委員会より募金贈呈
 <校長室>

○ 7月24日(月) 佐賀県立西高等学校 2年生(4名)事務所訪問
 *3/20(月) 探究学習「アフリカの子ども達に蚊帳を」
 *ユニセフ学習習 後に 募金活動を実施
 *7/20(月) 募金贈呈 15:00~15:30



○ 7月31日(月) コープさが生協 2022年度の募金総額の報告
 松本美和子会長より佐賀県ユニセフ会長へ報告

・東ティモール指定募金	¥ 695,851円
・自然災害緊急募金(パキスタン)	¥ 447,700円
・ " (トルコ・シリア)	¥1,241,565円
・ウクライナ緊急募金	¥3,767,455円

合計 ¥6,152,571円

○ 8月2日(水) 白石町立白石小学校 平和集会 8:30~9:30
 全校児童 167人 <体育館>



○ 8月3日(木) 2023 ピースアクション 10:00~12:00
 *ウクライナ危機から1年パネル展示
 *「ウクライナ危機から1年」報告。
 *募金活動 <アバンセホール>



○ 8月4日（金） 佐賀市立中川副小学校 平和学習 1年生から5年生 77人
8：40～9：10

《内容》★「紛争の中で生きる子どもたち」 <体育館>
★ 5年生による「戦争当時の暮らし」発表



○ 8月5日（土）～8月9日（水）第32回佐賀市平和展

*地雷レプリカ展示、
*「ユニセフの戦後日本の子どもたちへの支援」パネル展示
*「ウクライナ危機から1年」パネル展示 動画
*やってみようボランティア→切手整理 <佐賀市立図書館>



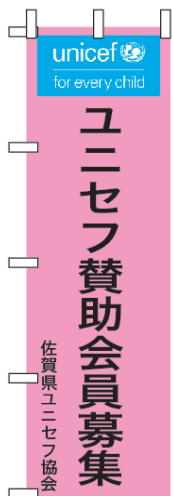
○ 8月18日（金）佐賀市立諸富北小学校 児童クラブ 「ユニセフ教室」
13：00～14：00（1年生～4年生 38人）

《内容》★「世界の子供達とユニセフ」
★「やってみようボランティア」切手の整理体験
<諸富北小放課後児童クラブ教室>



○ 8月29日（火）佐賀市立川副中学校 1年生から3年生 287人
(一部対面、他オンライン授業) 10：25～11：15

《内容》★ユニセフ学習
『SDG s 学習～自分たちにできること～』



ご支援
ありがとうございます

田口電機工業株式会社様、佐賀玉屋従業員ご一同様、コープさが生活協同組合様、北川眼科武雄本院様、宮城県人会さが様、アルタ開成店様、平尾建築コンサルタント事務所様、佐賀ふるくま賑わい推進協議会様、報恩寺様、

佐賀西高等学校2年生様、唐津市立肥前中学校様、神崎市立千代田中部小学校様、鹿島市立浜小学校様、佐賀市立東与賀小学校様、小城市立岩松小学校様、佐賀市立鍋島小学校様、佐賀清和中学校様、

大塚製薬佐賀工場環境安全課様、佐賀市立図書館様、北川副ボランティア様、佐賀大学医学部基礎研究棟様、コープさが新栄店様、おおぞら高等学院様、国際ソロプチミスト佐賀西部様、北川眼科様、みのり歯科診療所様、佐賀リハビリテーション病院様、佐賀県庁県民協働課様、佐賀市役所こども家庭課様、佐賀県視聴覚ライブラリー様、伊万里木材市場様、かささぎの里様、佐賀市国際交流協会様、ゆめプラット小城様、鳥栖市立基里小学校様、佐賀市立循誘公民館様

(順不同:2023年5月1日～2023年9月21日)

※ 個人の皆さま方からもたくさんのご支援ご協力をいただいておりますが、この欄でのご紹介は学校・企業・団体様等のみにさせていただきました。

賛助会員募集中！ 日本ユニセフ協会賛助会員としてご協力ください。

(公益財団法人日本ユニセフ協会の賛助会費は、ユニセフ募金や寄付金と同様、寄付金控除の対象になります。)

日本ユニセフ協会賛助会員とは

賛助会員の種類と期間

日本国内での募金活動、広報およびアドボカシー（政策提言）活動を担う日本ユニセフ協会を、賛助会費によって支援していただく協力方法です。賛助会員になってニュースレターや資料を入手して理解を深め、世界の子どもの状況やユニセフと日本ユニセフ協会の活動を知り、できる範囲で行動する機会にさせていただくことができます。

1. 一般賛助会員 1口 5,000円…個人の方が対象
2. 学生賛助会員 1口 2,000円…学生の方が対象
3. 団体賛助会員 1口100,000円…企業、団体、有志のグループなどが対象 期間は、1年ごとの更新。
✿詳細については、佐賀県ユニセフ協会までお問合わせください。

5/3(水) 第119回 有田陶器市会場での 募金活動

今右衛門窯様の自宅及び 展示倉庫の前にて



助けたい

ウクライナ・トルコ・シリアの子どもたちを!

★佐賀県ユニセフ協会では毎年、今右衛門窯様のご理解とご協力により、自宅前と展示倉庫前で募金活動をさせていただいています。会場では、学生ボランティアの皆さんによる募金活動とユニセフスタッフによる「ミニバザー」を行いました。佐賀大学や西九州大学の学生さん、佐賀清和高等学校インターアクト部の皆さん、参加ありがとうございました。

★今年の募金活動も、まだ終わりの見えないウクライナの戦争で苦しむ子ども達やトルコ・シリアで起こった地震で難民となった子どもたちを支援する「自然災害緊急支援」のための募金活動として呼びかけを行いました。

★今年もお天気に恵まれ4月29日から5月5日まで有田陶器市が開催され、JR有田駅から上有田駅までの約3キロの通り沿いを中心に焼き物店450店、飲食店を含めると計約600店が出店していて、コロナ禍以前の賑わいとなりました。期間中7日間の人出は115万人と発表されていました。

5/21(日) 『第27回ユニセフチャリティーバザー』

4年ぶり

チャリティーバザー及び募金は、
総額 **¥227,160円**ともなりました。

★佐賀県ユニセフ協会では、コロナ禍で開催をすることができなかったチャリティーバザーを今年4年ぶりに実施することができました。今年のテーマは、いま世界で武力侵攻や自然災害で苦しんでいる子どもたちを助けたいという思いで『ウクライナ緊急支援』『トルコ・シリア自然災害支援』に焦点を当てて実施しました。

奇しくも、バザー当日にウクライナのゼレンスキー大統領がG7会議に急遽広島に来られていたこともあり、子ども達を助けたいという思いで、バザーの呼び声にも力が入りました。

★当日は、佐賀玉屋様と近隣の高校生やボランティアの皆様のご協力で、チャリティーバザーと募金活動を並行して行いました。バザーでは、高校生の優しい対応にお客様も気持ち良く、たくさん買い物をしてくださいました。募金活動でも高校生が力強く「ウクライナでは780万人の子どもたちが家や学校を焼かれ苦しんでいます。」「ウクライナの子どもたちを助けたいです。募金にご協力ください。」と呼び掛けてくれました。その熱心さに買い物に来られたお客さんからもたくさんの募金を入れていただきました。生徒の皆さんは、大変やりがいを感じていました。

★また、バザー品は、ほとんどが新品で、5000点ものご提供をしていただきました。学校用品株式会社様や国際ソープチミスト佐賀西部様などの団体をはじめ、多くの個人の支援者様から提供していただきました。皆様、ありがとうございました。

第27回ユニセフチャリティーバザー
助けたい
ウクライナ・トルコ・シリアの子どもたちを!
2023年5月21日(日)14:00~15:30
佐賀五福 南館アーケード 売場2階2F
バザー一品ご提供のお願い! 当日ボランティア募集
日用品類、タオル類、陶磁器、会場での売り子ボランティア
募金額、売場 等(4階席のもの) 5月21日(日)13時~16時
会場品 (国産・産地限定のもの) 会場のお事情に対応するために
※その他 にご協力をお願いします。



北陵高校、清和高校、佐賀商業高校、立正佼成会、他ボランティアの皆さん、有難うございました。

unicef 2023 ユニセフ講話とシアター



※ 2023年7月30日(日) 13:30~16:30
 ※ 会場:佐賀市立図書館 多目的ホール
 ※ 内容

参加者数 96人

- ① 講話『ウクライナの戦火から逃れて』
キーウ出身 ポジダイエヴァ・アンナ 氏
- ② ユニセフシアター 『娘は戦場で生まれた』 映画上映
(2019年作品)
- ③ パネル展示 「ウクライナの子どもたちを 助けたい！」



まず知ること、自分にはできないことはないかなど 一緒に考えたい！！

◆ウクライナでは、2022年2月24日から始まった武力侵攻から1年10ヶ月が過ぎても紛争は更に激化、終息の兆しが見えません。過去の歴史から学ぶはずが、2022年の報告でも56の国や地域で紛争が起こっているという現実があり、危機感が募ります。

◆佐賀県に避難して来られたキーウ出身のアンナさんは、講話で、侵攻が始まり爆撃音で目覚めた時の恐怖や自分の会社が爆撃を受けた悲しみ、両親やペットと離れて非難せざるを得なかった苦しみなどを話されました。また、最後には、佐賀でのいろいろなポートへの感謝の思いを述べられました。

◆当日は、関谷静司先生も飛び入りでキーウの曲をギター演奏をしてくださり、高校生ボランティアさん達は進行や準備を手伝ってくれました。



【講話をするアンナさんと娘のイェリサヴェタさん】

《アンナさんの講話の感想など》

- *メディアではなく生の声を聞き、戦争があっていることを実感した。日本の高校生としてウクライナのことを知り、発信していきたい。
- *女性の目から見た戦争の始まり方から経過まで、当事者本人から話を聞いたことが一番良かった。
- *初めて爆弾の音を聞いたかもしれない。ものすごく驚いた。戦争は日常を壊すもので、平和の尊さを心から感じた。
- *写真や身近な動画から現実をより把握することができた。自分に何ができるか？まずは知ることから、そして行動を起こしていきたい。
- *約8ヶ月の佐賀での避難生活に感謝の言葉を何回も述べておられた。日本ででの生活が辛いものでないことが嬉しかった。1日も早くキーウに平和が戻り、帰れることを願っています。

2023 佐賀県ユニセフ協会 主催

講話とユニセフシアター

★講話:『ウクライナの戦火から逃れて』

講師: ポジダイエヴァ・アンナさん
(女性)キーウ出身

<メッセージ>
私は1978年4月17日にキーウで生まれました。私は17年間結婚しており、リサとマリアの2人の娘がいます。2022年11月15日に佐賀に避難しました。私は佐賀の街がとても好きです。とても美しい自然とても親切な人がいます。私たちの家族を助けてくれ、平和な空の下で暮らす機会をくれた日本にとても感謝しています。

13:30~14:20

★シアター 14:30~16:10

「娘は戦場で生まれた」

2019年作品

2019年イギリスシリア映画、シリア本管有の難民リア・アッポホ大学に通う女子学生リアは、デモ運動の参加者になりシリアでの難民を救済しようとする。しかし平和を願う市民の願いに反し、紛争は激化。そんな中、リアは難民として避難する若者ハムリと出会い、決意する。生まれた地が「家」で「家」を失った彼女が、家を探し、家を見つける。主人公は、家を見つけるまで、家を探し、家を見つける。主人公は、家を見つけるまで、家を探し、家を見つける。

監督:ワド・アルカアブ、エマド・ワフ

出演:ワド・アルカアブ、サマ・アルカアブ、ハム・サ・アルカアブほか

要予約
入場無料

★期日 2023年7月30日(日) 13:30~16:10(開場13:10)

★会場 佐賀市立図書館 2階 多目的室
(佐賀市天神3丁目2-15 TEL 0952-40-0001)

★定員 60名 (コロナ感染予防のため人数制限)

【後援】 佐賀県・佐賀県教育委員会・佐賀市・佐賀市教育委員会・佐賀新聞社・西日本新聞社・朝日新聞社
 (予定) 毎日新聞社・読売新聞社・NHK放送局・NHK佐賀放送局・サガテレビ・エフエム佐賀・NBCラジオ佐賀
 【問い合わせ先】 佐賀県ユニセフ協会 〒840-0054佐賀市水ヶ江4丁目2-2 TEL/FAX 0952-28-2077

NHKの全国放送でも取り上げても らいました



《「娘は戦場で生まれた」の感想など》

- *戦争や内戦でたくさんの子どもたちが犠牲になっていることを目の当たりにして、とても心が痛んだ。何の罪もない人々がその命を失ってしまうという争いの残酷さを感じた。
- *命の重みとはかなさを同時に学んだ。当たり前に過ごしている日々があたりまえでないと重大さも学んだ。見ていて苦しかった。このような現実があるということが悔しかった。
- *今もシリアで絶望的な攻撃を受けている人たちのことを考えました。私達の平凡な平和な日々世界に醜い争いが見えにくくなっていることに、自己嫌悪に陥りました。

宮城県人会さが 代表 富田 万里さん
—佐賀市—



ユニセフへの募金贈呈に事務所を訪れた
宮城県人会さの富田万里さん(右)と池野さん(左)

【宮城県人会さの紹介】

「宮城県人会さが」様は、2023年5月11日、結成12年の記念日を迎えられました。

会の発足は、2011年の東日本大震災をきっかけに、佐賀に住む宮城県出身者など9人で結成されたのが始まりで、これまで被災地の支援活動を行う他、故郷への思いを語り合う交流の場として様々な活動をされています。

今では、宮城県出身者だけではなく、様々なイベントや活動に賛同する「宮城県愛」を持つ佐賀の皆さんも会員として参加されているそうです。現在、会員44名で、故郷宮城県への支援は勿論、同じ地球に住む仲間として、武力侵攻の危機にあるウクライナの人々や地震災害で苦しむトルコ・シリアの人々への支援にも取り組んでおられます。

宮城県人会さの活動について

震災後の2011年5月11日「ふるさとのためにできることを」をモットーに結成し12年が経過しました。交流会、通信発行、宮城県産品の販売、宮城ゆかりの映画の上映会等の活動は、私にとって今や生活の一部になっていて終わることはありません。活動していると誰かと出会いご縁が広がります。それは佐賀という気候も人情も温かい土地柄のおかげでもあると思っています。

宮城と佐賀の互いを思いやりつなげる力に元気ももらいながら、これからも細くとも長くつづく宮城県人会さがであります。

<富田万里さんの思い>

マスコットの“おのくん”



ぼくたちは、宮城県陸前小野の生まれです。震災後に仮設住宅のお母さんたちが靴下で作ってくれました。かわいくて大人気です。

イベント会場では、宮城県の名物“仙台麩”や“仙台ふくちゃん(味噌味)”“鯨大和煮缶”などの販売をされ、ふるさと支援も続けられています。



【佐賀県ユニセフ協会とのつながり】
(その1)

★佐賀県ユニセフ協会は、代表の富田様とは随分前に「子どもの人権」についての資料提供を行った事からのお付き合いです。また、東日本大震災に関しては、佐賀県ユニセフ協会でも、宮城県の南三陸町など被災された方々の復興を願い「3.11忘れないパネル展」を10年間行い、被災された方々と“心は共にある”ことを確認してきました。

【3.11わすれない
パネル展の様子】



(その2)

★「県庁内販売会」や「さがひな市」「佐賀中央メーデー」などのイベントで出店された収益の一部を昨年は「ウクライナ緊急支援」に、今年は「トルコ・シリアで被災した子ども達に」寄贈してくださいました。

(その3)

★富田さんから、宮城県南三陸町を舞台にした『千古里の空とマドレーヌ』の映画の紹介があり、ユニセフスタッフで応援に行きました。夢を追うパティシエとボランティアたちの物語で、南三陸町に思いを馳せました。

《富田万里さんからのコメント》

★自然災害における被災地、戦争の絶えない紛争国、そのどちらにおいても子どもたちが希望を失わずに生き抜いて平和な未来を築いてほしいと切に願っています。今後とも佐賀県ユニセフ協会様とのご縁を大切にしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

(原稿提供：富田万里さん 取材：江島きよ子)